

わたしたちの学校 シリーズ⑦

町立の小・中学校の概要や各学校が取り組んでいる特色ある学校づくりなどを紹介しています。

◆流水小学校



全校児童 41名
学級数 4学級
職員数 10名
キヤッチフレーズ

「広げよう交流・読書の輪
伸ばそう力と個性」



本校は、明治9年宮之城小学校（現 盈進小学校）湯田分校として創立以来今年度130年を迎えています。

創立130周年記念事業の一つとして「親子20分間読書発祥の地」記念碑を建立しました。

これは、昭和34年から棕鳩十先生が提唱された「親子20分間読書運動」を、当時の堀内徹校長先生が1年前から先立って推進されたもので、今では毎週

土曜日か日曜日を「親子読書の日」「いもむしの日」として取り組んでいます。

また、学校では朝の読書タイムや地域の方による「読み聞かせ」、読書句間の取り組みなど充実した読書活動を通して知性と感性をみがいでいます。

棒踊りの継承

湯田区伝統芸能の棒踊りを引き継ぎ運動会や宮之城温泉・湯田八幡神社大祭・ほのぼの苑で披露しています。

米作り

6年前から、学校近くの田んぼを借りて米作り体験を実施しています。長寿会の方々に、田植えから稲刈り・脱穀まで教えていただきながら活動しています。12月には、もちつき大会を実施し、自分たちで作ったモチ米の味を楽しんでいます。

長寿会との交流

湯田区長寿会の皆さんには、米作りも指導していただいています。グラウンドゴルフをしたり昔の遊びを教えていただいたり、パソコン学習を子どもたちが教えてあげたりして交流を深めています。

さらに、詩や俳句による表現力の育成にも力を入れており、南日本新聞の「子供のうた」には、本校児童の詩がたびたび紹介されています。

◆佐志小学校



全校児童 63名
学級数 6学級
職員数 14名
テーマ

自然にやさしく
みどりや花いっぱい



特色と活力ある学校づくり

地域と連携した教育の推進

【地域の学習支援者との連携】
「食」への関心と感謝の気持ちを育むために、地域の方の指導のもとで食農体験活動を取り入れています。

特に、わくわく食農フェスティバル（12月）は、「もちつき」「おむすびづくり」「ねったほづくり」など、昔ながらの教えが不可欠な活動です。そこで、子どもたちが中心になりながらも、公民館長さん、おじいさん、おばあさんに支えていただいています。

【佐志きらめきの会との連携】

佐志きらめきの会は4年前に親父の会として発足しました。現在会員は保護者・地域住民・PTAのOB・教職員など51名です。第3土曜日を中心にして活動する土ようクラブや学校教育支援、環境整備などの活動をしています。今年も、アクマキづくり、そうめん流しなどをやってきました。

豊かな人間性と健康な体づくり

【ボランテア活動の推進】

毎朝、始業前にボランテア活動を行っています。児童会で活動場所や活動内容を自主的に決めます。清掃が主になっていますが、その時々が必要に応じた活動にも目を向けています。清掃は、早い登校や冬の寒さなどの困難にチャレンジしながら「自分の学校は自分の手できれいに」とがんばっています。空き缶リサイクル活動は6年目になり、今では、地域の方々が、アルミ缶とスチール缶を分別して提供してくださることも多くなっています。

児童は、自分たちの活動が自然にやさしいエコ活動となっていることを実感し、励みになっています。

【健康な歯・体力づくり】

健康な歯を維持していくために、毎週1回、校医と連携し、ミラノールうがいを実施しています。また、毎朝ほぼ全員が自分の体力に合ったスピードで5分間走に励んでいます。健康な歯と毎日少しずつの体力づくりを基礎として学力向上も推進したいと思っています。